

数学

名古屋大学 理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部

(自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期)

1 / 1

<全体分析>

試験時間

150 分

解答問題数

4 題

解答形式

全問論述式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

確率が出題された。

数学Ⅲからの出題が多い。

その他トピックス

3年連続で複素数平面が出題された。

融合問題が多く出題された。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	2次関数 整数 微分法	数学Ⅰ 数学A 数学Ⅲ	接線がちょうど2本引ける条件に関する問題。 接点のx座標が整数となる問題。	標準
2	複素数と方程式 複素数平面	数学Ⅱ 数学Ⅲ	方程式の解のうち、実部が最大のものを求める問題。 2つの方程式の共通解を求める問題。	標準
3	空間ベクトル	数学B	原点から平面に下ろした垂線の足に関する問題。 原点と領域内の点との距離が最小となる点を求める問題。	標準
4	確率 数列 積分法	数学A 数学B 数学Ⅲ	余事象を利用して確率を求める問題。 数学的帰納法を利用して等式を証明する問題。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

大問4題の中に、分析力、思考力、論述力を試す問題が組み込まれている。典型的な計算・証明も含まれる一方で、状況をよく観察、分析し、構想する力、および与えられた条件や目標を念頭において式を扱う力が必要となる問題もある。

以上のことを踏まえて日頃の学習において、まずは標準的な解法を確実に身につけておこう。その後、本大学の過去の入試問題や入試攻略問題集(河合出版)を用いて、難易度や傾向を把握しておくといよい。本大学では微分法と積分法・確率・整数・数列・図形が頻出であるから、これらの分野は重点的に学習しておこう。